

令和6年度第7回

隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年12月17日(火) 13時30分～15時00分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 3階 303会議室

3. 出席者

1号委員	角脇 一夫	富田 信吾
2号委員	吉田 輝美	吉山 明利
3号委員	池田 明生	
4号委員	常角 辰夫	佐藤 格丈
	石田 千恵	

【事務局】

総務学校教育課長	金井 和昭
総務学校教育課総務係 係長	大上 達也
総務学校教育課総務係 企画幹	村尾 駿

4. 欠席者 3号委員 吉崎英一郎

5. 報告事項 前回会議録の確認

6. 会議の経過 別紙のとおり
議録作成者 総務学校教育課 総務係 大上達也

別 紙（会議の経過）

1. 前回会議録の確認

【事務局】では、予定より若干早いですが、第7回小中学校のあり方に関する検討委員会を始めさせていただきます。初めに、出席者の確認と前回会議録の確認を行います。まず、6番の吉崎委員は他の会議のため欠席となっておりますので、よろしくお願いします。それ以外の皆様はご出席いただいております。また、事務局からは金井課長以下全員が出席しております。

次に、前回会議録の確認ですが、本日までに特にご連絡はいただいております。名前の掲載についても、問題がないようにしております。

送付が遅くなってしまう申し訳ございませんでした。よろしくお願いします。委員長挨拶をお願いします。

2. 委員長あいさつ

【委員長】皆さんこんにちは。今年も残すところあとわずかとなりました。お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。前回の検討委員会は11月27日に行われましたが、その際には皆様から貴重なご意見やご提案をいただきました。ありがとうございました。

おかげさまで、この検討委員会の果たすべき役割がはっきりしてきたのではないかと思います。その話し合いの中で、いくつかのキーワードが浮かび上がりました。まず、学校の存在意義について話し合われました。また、地域振興と学校の関係、そして生活基盤と学校の関わりについても議論が行われました。さらに、『子どもファースト』で考えるという意見も出されました。これらを通じて、今後の小中学校のあり方について方向性が見えてきたのではないかと感じています。本日はこれを基に、中学校の配置について検討を進めていく予定です。忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 協議事項 提案書について

【委員長】それでは、協議に入ってもよろしいでしょうか。今日は先ほどお話ししましたように、中学校の配置について検討いたします。これが今日の大きな議題となります。皆さん、前回の提案書はお持ちでしょうか。確認のために、中学校の部分を事務局の方で再度読み上げていただけますか。

【事務局】資料の提案事項の読み上げ。

【委員長】ありがとうございました。大半のご意見は、中学校を2校に統合したらどうかというものでした。現状のままでよいという意見はほとんどありませんでした。ただし、6ページの一番下の行に「統合すると郡部が限界集落化する恐れがある」との意見もあります。しかし、委員の皆さんの多くは、現状維持ではなく、2校への統合が良いと考えています。その2校とは、西郷中学校をそのままにし、西郷南中学校に都万中学校と五箇中学校を統合することです。このようにすると、生徒数は現在の参考を基にすると、西郷中学校と同じ規模の学校が2校となります。また、部活動についても、2校にすれば競合し、活動の体制が充実するとのことご意見もありました。皆さんのご意見を基に、2校への統合を結論として出してもよろしいでしょうか。異論がなければ、1校ではなく2校ということで進めていきたいと思います。また、学校名の問

題もあります。西郷南中学校と五箇中学校と都万中学校が一緒になった場合、「西郷南中学校」という名前は適切でないのではないかと意見があります。6ページには「新設中学校」という言葉が記載されており、7ページにも「新たな学校名」という意見が出ています。そのため、3校が一緒になる場合は、新たな学校名を決めた方が良いでしょう。決め方については、教育委員会事務局の方で進めて頂けたらと思います。なお、これは吸収合併ではなく、同レベルでの統合ですので、中学校名は新たに作成した方が良いでしょう。最後に、学校統合のメリットとデメリットについて、私の方で整理したプリントがありますので、説明させていただきます。不十分な点もあるかと思いますが、皆さんからご意見をいただければと思います。共通の理解を得ることが必要ですので、よろしくお願いいたします。

【全委員】異議なし。

【委員長】学校統合のメリットとデメリットについて、まずメリットを挙げます。地域の問題は含まれておりませんが、子供たちのことを考えてメリットとデメリットをまとめました。

□メリット

○授業について

- ・多様な考えに触れることができる。
- ・自分の意見を多くの人数の中で表現できる。
- ・他者の意見を聞き、自分の考えと比較する力が養われる。
- ・グループ学習により、学習意欲の向上が期待できる。

○部活動について

- ・部活の選択肢が増え、文化芸術活動の部活も可能になる。
- ・多くの同級生の中で切磋琢磨できる。
- ・スポーツの部活動により体力や運動能力の向上が期待できる。
- ・文化芸術への興味関心の向上が図れる。
- ・仲間意識を育て、協力することの大切さを学ぶことができる。

○学校生活全体について

- ・交友関係が広がり、社会性が養われる。
- ・コミュニケーション能力の向上が期待できる。
- ・多くの友人と喜びや悲しみを共有することで、思いやりの心や友達を大切にする心が育まれる。

○特別活動について

- ・生徒会活動が活性化する。
- ・運動会、修学旅行、入学式、卒業式などの学校行事が活性化する。
- ・本町教育大綱の基本政策や検討委員会の目指す子供像の具現化につながる

□デメリット

○登下校について

- ・スクールバス利用により通学時間が増え、部活動や家庭学習の時間が減少する。

○教職員の目が行き届かなくなる

- ・小規模校と比較して、教職員の目が十分には行き届かなくなる。

- きめ細かな指導が不十分になる

- ・生徒一人一人に応じたきめ細かな指導が不十分となる。

- 環境の変化による不適応

- ・統合時において、特に環境の変化により不適応となる生徒が出てくることがある。

- ・登校時間の増加などにより身体的な負担が増える。

これらのデメリットについては、教育委員会や学校、家庭で解決すべきことも多くあります。今後の中学校のあり方について、ご意見をいただきたいと思います。

【委員】実際、部活動を選んで他から西郷中学校へ通うことを考えると、負担が全くないわけではありません。登下校に関するデメリットは大きな負担ではないと思います。最も遠い場所から通うことを考えると別の話になりますが、より多くの友達ができることを考えると良いのではないかと思います。

【委員長】ありがとうございました。

【委員】ここには挙げていませんが、親の負担が少なくなるのではないかと思います。例えば、他の地区から西郷に行く場合、以前はバスケットをするのに西郷に行くことがありましたが、スクールバスがないため、親が送り迎えをする必要がありました。西郷に勤めている親がいる場合は、帰りに迎えに行くこともあるでしょうが、そういった負担が減るのではないかと思います。いわゆる校区外に行くことが2つの学校で平均的に行われる場合、いろいろな条件を整理すれば効果が出るだろうと思います。例えば、iPadを使った教育や働き方改革など、いろいろなことができるようになるでしょう。部活動については、何年度から部活を全部廃止するという話はまだ上がっていないと思いますが、現状では部活動が重要な要素を占めています。何らかの形で負担の軽減になるのではないかと思います。以上です。

【委員長】ありがとうございました。校区外の生徒もつ保護者の負担軽減につながるという話でした。校区外申請された五箇・都万の生徒さんって何人ぐらいいるかわかりますかね。

【事務局】中学生の数ですかね。ちょっと今、手元に資料がございません。

【委員長】ですね。私も実態を掴んでいないので。部活動の話で、昨日の報道で神戸市では学校の部活動を全面的に廃止し、地域のスポーツクラブや地域に委ねることになりました。これは2年後か3年後から始まる予定で、すぐには実施されません。これが全国的に広がるかもしれませんが、現時点では神戸市が先行しているようです。中体連の大会はそれぞれの地域から参加するという報道もありました。

【委員】現状ですが、社会体育に全面移行すれば、その費用はすべて所属クラブで賄わなければなりません。例えば、隠岐の島町では、2種類のケースがあります。1つはボランティアの指導者が子供たちを見ているケース、もう1つはスイミングクラブのように、職員が給料をもらって

指導しているケースです。スイミングクラブでは、職員が給料をもらいながら子供たちを指導し、学校の代表として県大会に出場することもあります。野球やサッカークラブでも、指導者が必要だと思います。将来のプロ野球選手やJリーガーを育てる組織として、サンフレッチェのジュニア版のようなものが考えられます。しかし、隠岐の島ではほとんどのクラブがボランティアで運営されています。社会体育に移行すると、中体連の大会などでは、学校の部活動は教育委員会からの資金援助を受けていますが、民間クラブはそうではありません。そのため、中学大会に出場する際の費用はすべて保護者負担となります。また、地域の活動がすべて社会体育に移行した場合、指導者が不足し、結局教員がその役割を担うことになります。現在の部活動がすべて社会体育に移行した場合、学校での指導は行わないと言いながらも、見てきた顧問がボランティアとして継続してもらうことになります。熱意のある教員は続けるかもしれませんが、働き方改革の趣旨からすると、完全にそうならない状況もあります。外国と日本のスポーツの土壌は異なります。日本のスポーツは学校の部活動で成り立っている部分が大きく、一部のスポーツ、体操やサッカーなどはスポーツクラブに頼っています。神戸市や他の地域での取り組みが全国的に広がるかどうかはまだわかりませんが、現状では神戸市が先行しているようです。

【委員長】ありがとうございました。他の委員さんどうでしょうか。

【委員】デメリットで通学に関すること、スクールバスについてですが、うちの子も今スクールバスで通学しています。小学校ですが、通学に費やす時間については特に意識したことはありません。家庭学習の時間が減少するという点については、スクールバスを利用することでデメリットをあまり感じたことはありません。

【委員長】ありがとうございました。他の委員さんどうでしょうか。以前の会議で、中学校は2校で良いという意見を言われていた委員さんもおられました。

【委員】今でもその気持ちは変わっていません。西郷中学校は西郷小学校からの持ち上がりですが、新しい中学校には6つの小学校の子どもたちが集まることになります。思春期の子どもたちを育てることが非常に難しいのではないかと心配しています。

【委員】実際に今、西郷南中学校は4校の小学校から通っています。中学校に上がる前に、6年生のときに特に外国語の授業を通して関わることをしています。なので、いきなり入学して初めて会うのではなく、それまでにお互いを知る機会を設けています。今心配されているようなことが起こらないようにしています。都万・五箇・南中の生徒が集まる場合も、事前にそういったことを考えながら対策を講じることができると思います。あとは、学級経営や担任の力量、生徒指導にも関わってくると思います。

【委員長】ありがとうございました。本当にそうですね。6校の小学校から1つの中学校へ入ってくると、いろいろな問題が生じるでしょう。現在の西郷南中学校も統合当初はいろいろとごたごたがあったようです。他の委員はどうでしょうか。

【委員】まず、既存の西中ありきで他少ないところを1校にするというような考え方がすごく、逆に2校だったらそういう案があってもいいと思うんですけど、これ逆に1校じゃないかなと思ってしまう。もうそしたら半永久的じゃないですか。

【委員長】もう1校っていう選択肢もどこかありましたかね。

【委員】あと部活動の地域移行の話なんですけど、ある意味それがなるのであれば、校区外申請とかっていうのはもうなくなるわけですね。

【委員長】そうなるかもわからないですね。主に校区外申請は部活動を理由に校区外申請されています。

【委員】中学1校だと、もう学校の中だけで勝負づけが進んでしまうっていうような、ところもあるので2校あった方がいいのかなって思ったりはしてたんですけど。1校にしちゃうと、もう全生徒が関わってくる話になるので、それこそ美保関の話をされてましたけど、統合するにしてもみんな一緒になるんだって、何か前向きに考えられるんじゃないか。統廃合になるとどうしても後ろを向く人の方が、多いような気がして。1校だとそうなんだ。みたいな感じになるんじゃないかなと思ったりして。全然考えがまとまってないんですけど1校じゃなくて2校にした何か理由とかが、明確になってると、何か納得できるような気がしますし。

【委員長】1校の案もありますが、皆さん、2校が望ましいという根拠は何でしょうか。

【委員】1校のメリットは、それ以上はないという事だと思います。もう不変になりますよね。それ以上となると島から中学校がなくなるという話になります。ただ、生徒が増えたときにどうなるのかという心配はあります。実際、今すべて合わせても多分2クラスか3クラスです。人数のメリット・デメリットの話もありましたが、クラス替えの話も出ていました。2校になったときにクラス替えが出来るのかと思ったりしますが、1校だったらクラス替えができると思います。

【委員長】皆さんにも配布します。これは2校になった場合の生徒数を一覧でまとめたものです。平成7年度、来年度ですね。1年生が114人で、4クラスになります。1年生が1クラス35人、2年生が1クラス38人、3年生が1クラス38人の基準があるので、7年度は3学年すべて4クラスになります。

【委員】言い出したものの、結局、経済活動の話をしたと思うんですけど、1校にすれば、その分だけの先生しか職がないわけです。今ある中学校、この3つの中学校の教員、つまり30人ぐらいの職がなくなるわけです。教員数だけでなく、施設管理員などもあるわけですから、簡素化されてすっきりはしますが、30人の職がなくなるのは大きな問題です。職業が少ない中で、これは大きな影響があると思います。その辺を考えると、統廃合はすべきではないと思いますが、子どもファーストで考えれば、1校で良いとも思います。答えが出ないんですよ。

【委員】これまで話してきた基準として、中学校は25人以上でした。私たちの地域を考えたときに、2つに分けるとちょうどそのぐらいのクラスが2つできます。そういうことを目指して考えると、こうだねという話になります。しかし、1校にすると、さっき言ったように30人を超えてしまいます。それは私たちが考えてきた25人には合わなくなってきました。

【委員】それって25人以上という話ではなかったですか。下限を25人というふうにしていたような気がします。条件を決めていなかったのですね。確かに、25人ぐらいは欲しいという話でしたね。

【委員】ただ、その時の話に挙がっていなかったかもしれませんが、全国の基準は40人でした。島根県は38人から35人という感じです。本当は、今話しているように20何人というところが理想ですが、職員を増やさなければならぬということもあり、少しでも減らして何とか島根県が他の県に比べて頑張っているという状況です。38人がベストという考え方ではなく、本来は管理の場からも、私が45人を持ったことがあります。40何人を持つよりも20人から25人のクラスが理想的です。いろんな活動をする上でも、いろんなことを考えたときに、20人台の子供を持つことが理想的です。しかし、38人や40人というのは上限になっており、厳しい状況の中でやらざるを得ないという事情があります。

【委員】いや、その辺は理解しています。私は小規模校が好きなので、やはり目が届く人数が良いと思います。そのため、40人が良いとは全然思いません。

【委員】その話は出ていませんでした。ただ、解釈としてそういう話があると、現場としては目が届きにいくことがあります。適正な人数として25人という数字を話し合いました。

【委員長】はい。ありがとうございました。他の委員どうでしょうか。

【委員】2校がいいと思うんです。2校編成できるなら、お互いに意識し合ってやるのが良いのではないかと思います。

【委員長】はい。ありがとうございました。私たちが特に考えるのは、五箇中学校と都万中学校の生徒数がどんどん減っていくことです。将来的には、都万中学校は1年生から2年生が4人前後で、全体で13人から14人、20人を割るような状況になると思います。そのような状況の中で、やはり子供たち一人一人のことを考えると、やりたいことができない、また一人一人の負担が大きくなっていくことが懸念されます。そういうことも考慮して、五箇中学校と都万中学校の中学生を西郷南中学校と一緒にして、適正規模な中学校にしたらどうだろうかという意見が大半でした。西郷中学校をどうするかという問題ではなく、特に五箇中学校と都万中学校の子供たちの教育の充実を考えながら、学校統合を進めていこうという話し合いが進んできました。いろいろな議論がありますが、一応2校という方向で、この検討委員会でその方向を示し、提案をしていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【全委員】異議なし

【委員長】いろいろな考えがあるかもしれませんが、異議もないようですので2校で話を進めます。次に統合の時期が問題になります。たちまち来年や再来年ということにはならないと思いますので、5年後ぐらいを目途に統合を進めていったらどうかと思います。教育委員会としてはどうでしょうか。統合する場合に、何年ぐらいの準備期間が必要か、何かお考えがありますか。

【委員】統合の時期の話はここでする必要性を感じていませんが。

【委員長】どうしてですか。

【委員】決まらないですよ。そこまで具体的に詰めて出すんですか。

【委員長】提案として時期は必要だと思います。時期を提案しないとこの方針はいつのことだということになりますよ。

【委員】最終決定機関ではないではないですか。

【委員長】だから、提案するんです。決定ではなくて提案です。

【委員】私は時期の提案までする必要はないと思っているのです。

【委員長】皆さんどうですか。提案書の中に令和11年度を目指してというのがありましたけど。

【委員】だってそれって5年後って言ってますけど、新設校にするのかどうかという話もしなければいけませんし、位置をどこにするか、用地買収から建物の建設まで、いろいろなことがあります。

【委員長】検討委員会は教育長に提案・提言するわけです。我々には決定権がないので、提案だけを行います。決定するのは教育委員会です。だから時期も何も出さずに、ただ統合すればいいという話だけの提案になってしまいます。どうするかは決定していないと言いながら、我々は今、統合を目指して検討しています。そういう提案をしないとイケません。いつになるかわからないような提案では駄目だと思いますが、皆さんどうですか。

【副委員長】皆さんからの提案書にも書いてありますが、早い統廃合ほど多くの生徒数を確保することができると書いてあります。今の隠岐の島町の人口減少や少子化を考えると、できるだけ早い段階での統廃合を進めるべきだと思います。令和6年度の出生数は66人です。この隠岐の島町全体で66人。小学校、中学校、高校に上がり、家庭を持ったときにどのくらいの人数になるかを考えると、将来的には1校でも良いのではないかと思います。必ずそうならざるを得ない状況が生まれてくると思います。今は、まずは2校から始めて、新設校を作るのか、今のままでいくのか、行政の方で考えていかなければならないことが出てくると思います。できるだけ時期を決めて、そこに向けて行政には頑張ってもらいたいと思います。それが子供ファーストに繋がるのではないかと思います。66人という数字は、今まで80人や120人を確保していた

時期と比べると少ないです。この10何年の間に半分になってしまいました。飯田小学校が西郷に吸収されたとき、私は反対でした。保育園の経営者としても反対でしたが、10何年たって今、東郷・飯田・犬来地区に子供は5人しかいません。大久地区で保育園に在籍している子供はゼロです。なぜその時にそれが思えなかったのか、今考えると不思議です。

【委員】その時期、皆さん言われるように、なるべく早くっていうのは僕もすごく賛成なんです、やるなら早く。無駄なことしなくてもいいですし、必要のない、必要なくなるものに投資する必要、私はないと。なるべく早くっていうのはわかるんですけど。いついつまでっていうの、なるべく早くっていう言葉で申し送りっていうのは無理なんですよ。

【委員】委員の言っていることに1つ同じ意見と思ったのは、もしこれが20年後に統廃合する場合、委員が言うように1校になるかもしれません。今の66人という数字を考えるとですね。今ここで議論しているのは、2クラスずつ持つことで切磋琢磨できる時期が10年から12年くらい続くのではないかとということです。これを悠長に構えていると、10年後に統廃合した場合、委員が言っているようにもっとひどい状態で移行することになります。子供ファーストで、子供が生き生きと過ごせる環境を少しでも早く実現するために、早くやって何とか持たせることが重要です。今の状況で2校という案が出ていますが、10年後の状況では1校にしてしまうことも考えられます。ゆっくり考えていると、はっきりした期限がないまま、南中も西中も1クラスずつになってしまい、我々の意見が反映されないことになります。私は3年から5年かかると思っていますが、3年は厳しいかもしれません。であれば5年。部活動をそろえと言っても、すぐにはできないので、今の1年生は3年生までその部活動を続けさせ、来年度から募集停止にするなどの手当が必要です。最低でも3年、ぎりぎりのところで5年かかると思います。もし5年でできないのであれば、委員が言っているように1校が良いと思います。なので、期限を決めて話を進めていかなければならないと思います。

【委員長】ありがとうございました。

【委員】すいません。1校という話をしたんですけど、副委員長がおっしゃったように、親の状況がどんどん先細りしている状態だから、2校にするなら、いっそのこと1校にしてしまった方がよいのではないかと思います。隠岐の島町の生活基盤が安定するのではないかと考えています。段階的に2校から1校にするのも良いと思いますが、教育委員会としてはっきりとした方針を持つべきだと思います。今の状態では2校という案が出ていますが、将来的には1校にすることが見えているのではないかと思います。全国的に見ても、少子化が進んでおり、税収や財政面の問題も出てくるでしょう。子供への投資は重要ですが、現実的に考えると、3年での統廃合は難しいと思います。新設校を作る場合、文科省への届け出や用地の確保、建設など、すべての手続きを考えると、最短でも5年はかかると思います。3年での統廃合は無理だと思いますが、5年を目途に進めることが現実的ではないかと思います。子供ファーストで考え、早めに統廃合を進めることが重要だと思います。

【委員長】今までのご意見では、一応2校ということで、5年後ぐらいの統合が望ましいというご意見です。この表の一番下にあるように、5年後は合併25年、10年後は合併30年となります。令

和16年です。この表の一番下を見ても、西中と新しい中学校の生徒数は247人で、300人を切っています。将来的に中学校1校という話もありますが、今後10年は当面の間2校で中学校を配置し、その後はまた検討するという意見です。一応、将来は1校になる可能性も含めて、現在のところ5年後を目指して2校の中学校を設置するというご意見です。いかがでしょうか。教育長への提言は、5年後、令和11年にかけて、2校の中学校を配置するという提言でいかがでしょうか。

【委員】子どもファーストと言いながら、大人の都合で5年後と決まってしまうんですか。私は統廃合の大変さがわからないので、聞いていて思ったのが、結局、大人ができないから5年後と言っているのではないかということです。それが果たしてその状態で良いのか。矛盾しているように思います。もっと早くしたらどうかという思いもあります。私は3年間を提言するには難しいことではないと思います。3年もしくはその幅を持たせても良いのではないかと思います。なるべく早くということで、5年ではなくもう少し前に持ってきて良いのではないかと思います。多分、5年後には、途端に1校の議論をスタートすると思います。

【委員長】もっと早くできるものなら早くした方が良いという意見ですね。少子化は待ってくれませんか。あとは事務的なことで、それができるかどうかの問題がありますが、地元の説得やその他の制度準備が必要でしょう。

【副委員長】そうですね。隠岐の島町においては大改革です。本当に説明にも時間がかかりますし、ここで良いものがあちらでは駄目で、いろいろな問題が出てくると思います。そこにはかなり時間がかかるとは思いますが、そこは行政の力が必要です。よろしくお願いします。

【金井総務学校教育課長】委員長から、実際に統合するようになった場合、どれぐらいでできるかというお話があったと思います。方針を出していただいてから、実際にその計画を作ります。計画に基づいて学校の統廃合を進めていくことになります。当然、その計画を作る時間がある程度いただきたいです。また、大人の都合や事情として、教職員の人事の関係にも影響します。そうしたところからすると、5年という時間があればおそらく可能だと思いますが、もっと早く進める場合には、3年ないし4年が一番早いと考えています。皆さんからいただいた意見の中で、西郷中学校、西郷南中学校、五箇中学校、都万中学校の4校を2校に統合するという案です。西郷中学校は現校舎をそのまま活用できると考えています。その他の3校についても、規模的には現在の学校を活用することができると思います。新たに建物自体を新設することになると、もう少し時間が必要になるかもしれませんが、現在の校舎を活用することで時間短縮が可能です。

【委員長】この検討委員会として、統合の時期について、例えば令和11年度を目途に統合を進めることという提案は大丈夫でしょうか。課長としては5年あれば十分ですが、3年から4年で今の校舎使えば可能だという考えですね。ただ、地元の説得が一番時間のかかることです。しっかりと理解してもらい、了承を得るには最低1年はかかるでしょう。その上で、事務的な作業や教育教職員の人事、校舎の施設設備の改築、スクールバスの手配など、いろいろな付帯条件が出てきます。それで果たして3年から4年でできるのか心配です。だから、やはり5年後ぐら

いを目途に統合を進めるという提案が一番良いのではないかと思います。

【金井総務学校教育課長】その表現の仕方だと思いますが、5年間は現状を続けた上で5年間たつて以降というのではなく、現在の状況として2校にするのがふさわしいのですが、それにはある程度時間がかかるでしょう。だから、令和11年度を目途にするという考えです。皆さんにわかりやすく、理解しやすい提案をしていただけると、それに沿った形で動きたいと思います。

【委員長】そうすると、令和11年、5年後に統合しなさいというのではなく、そこを目途にという表現で良いということですね。皆さんどうでしょうか。3年後や4年後に果たして実現できるのか、大人の都合ではありますが、統合自体が子供ファーストですので、時期についてはそれをまず考えなければなりません。

【委員】考え方としては、できるだけ早く、すぐにでもという気持ちはあります。ただ、現実的には難しいということで、その期間を見ています。令和11年を目途にというわけで、令和11年が期限のような感じです。令和11年を超えると、我々の話では、生徒数がどんどん減るので、そこが問題になります。早ければ早いほど良いですが、令和11年度を目途にやりましょうということです。ぎりぎりの期限として令和11年という考えです。要は、すぐにできれば来年からでも良いのですが、それは難しいです。

【委員長】そうですね。我々が一番心配するのは地元の反応です。色々な考えがあるので、理解をいただくためにはかなりの時間を費やさなければなりません。中学校がなくなるわけですから、五箇や都万の方々の思いを汲みながら進めていくには、やはりある程度の時間が必要です。統合自体は子供ファーストで考えていますが、時期の部分は事務的なことで一朝一夕にはできないところがあります。特に地元の方々の意を汲んで統合していくには、ある程度の時間が必要です。我々はここでは早く進めると言えますが、実際にはそんなに簡単にはできません。一応方向を示しながら、中学校2校で5年後を目途に統合することが望ましいという提案です。

【委員】ただ、その気持ちを持って取り組まないといけませんね。もしこれを超えると、次の10年もこの検討委員会が立ち上がると思いますが、メンバーが変わるかもしれません。次の10年では、1校にするという議論になるかもしれません。確実に減少しているので、66人という数字が示されています。出生率が急激に増えることは考えにくいです。何としてもこの期間内に統合を進めるべきです。目途より2年3年後になったら、今回の議論が無駄になってしまいます。南中も西中も1クラスしかない状態での議論ではありません。

【副委員長】2校を維持するための、施策を行政は進めないといけませんね。よろしくお願いします

【委員長】1時間ほど経ちましたが、少し休憩しましょう。

(休憩)

【委員長】それでは再開しましょう。中学校の配置について、皆さんからいただいた意見を大まかにまとめますと、中学校は2校とするということです。西郷中学校と、今の西郷南中学校、五箇中学校、都万中学校を統合して2校にするという案です。統合する中学校は、新たに新設として学校名を作るということです。統合の時期については、いろいろな準備や地元への説明が必要なので、5年後ぐらいを目途に、令和11年を目指して統合を進めるという話し合いです。そのようにまとめてよろしいでしょうか。あとは事務局の方でまとめていただければと思います。大体そのようなご意見だと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】3年から4年にした方が良いと思います。本当に5年後に統合するように進めてしまいます。早めに設定して良いと思います。どうでしょうか。その方がきちんと進められると思います。

【委員】提言ですよ。提言なので、意向を視野に入れて検討を進めてくださいという形ではどうでしょうか。すぐに実行して頂いて。どういう進め方をするかは教育委員会で決めるということですよね。

【委員長】ある程度目途をつけたほうが良いと思います。3年、4年、5年など、具体的な期間を決めた方が、教育委員会も動きやすいでしょう。都万や五箇の方にしても、ある程度の目安を持って考えていただいた方が良いと思います。

【委員】結論を出せということですか。5年後から始めなさいという提言にするのですか。

【委員長】5年後、令和11年を目指して統合の作業を進めなさい。ということです。

【委員】5年後が最終期限ということですよ。

【委員長】5年後、令和11年度に新設の中学校を配置するという方向で動いてください。それに向かって進めてください。ということです。

【金井総務学校教育課長】先ほど委員の方から、5年後、令和11年度というのは最終の期限だというご意見がありました。その意味が伝わるように、時期を示していただけるとありがたいと思います。

【委員】5年以内に必ず計画を実施するための方針提案です。遅れることは許されません。地域の説明、理解に時間がかかって5年や6年後になるのではなく、各地域については3年以内に理解して頂いて進めていく必要があると思います。3年以内に達成することは急ぎすぎるわけではありませんが、悠長に構えていると遅れが生じる可能性があります。この辺が最終期限だと考えています。いろいろな意見があると思いますが、早急に進めていく必要があります。

【委員長】令和11年を目途に統合を進めるという方向性ですね。

【委員】そんなに地域の理解を得るのに時間がかかるのですか。そんなに反対する人がいるのかな

と思います。同じ世代の親としても、私は大賛成です。反対するのは年配の方かもしれませんが、保護者の意見を大事にしてもらいたいです。地域の意見を重視しすぎる必要はないと思います。すみません、勝手な意見かもしれませんが。

【委員長】早く進められるなら、早く進めて頂きたいですね。しかし、最終的な決定は教育委員会や町長が行うべきです。我々の提言としては、なるべく早く進めて欲しいという気持ちはありますが、5年後を目途に作業を進めるということです。統合の作業について、事務局にまとめていただきます。

【事務局】わかりました。

【委員長】中学校の配置については、いろいろな意見がありましたが、この検討委員会としては、そういう方向で結論を出したいと思います。それでは、次回は1月になりますが、これから小学校の配置について、皆さんからご意見をいただきます。すでに提案書に小学校の問題について記載されていますので、これをもとに1月にまた皆様からご意見をいただき、検討委員会で話を進めたいと思います。皆さん大変だと思いますが、いろいろと考えていただきたいと思います。1月の会議の日程はいつがよろしいでしょうか。

次回会議日程を決定した。

令和7年1月14日 13時30分から 303会議室

※後日、数名の委員から都合が悪い旨の報告があり、再日程調整の結果

令和7年1月17日 10時00分から 303会議室 に変更となった。

【委員長】以上で終わります。ご苦労さまでございました。

全てを終了した。